

ゲーリー・ベッカー (Gary S. Becker) 教授の業績について

ベッカー教授の業績を一言で表現するならば、従来、金銭や経済的問題にだけを分析してきた経済学の適用範囲を、極めて広範かつ多様な社会問題全般に拡張し、それに基づいて多くの政策提言を導き出して、現実の社会経済政策に大きな影響を与えてきたことにある。その主張は、現実の社会経済政策として数多く採用され、現実の社会を変える力となっており、世界で最も現実の社会政策に影響を与えてきた経済学者の一人である。

まず中心的な業績は、人的資本と呼ばれる分野を開拓し、学校教育や職業訓練などの教育活動が人々の所得や生活、社会に与える影響を多面的に明らかにし、それが人口構成や経済成長に対しても最大の影響を与える要因であることを解明し、教育問題を理論的・実証的に分析する教育経済学分野を確立した。

次に、従来、金銭や経済的問題にだけを分析してきた経済学の適用範囲を、人間行動のあらゆる側面を合理的選択の結果と解釈することで、人間行動のあらゆる側面の説明を可能にした。教育、職場訓練、人材育成・労務管理、人口問題、差別、結婚、離婚、虐待、信仰、犯罪、麻薬、など、家計内の役割分担、人間行動の様々な問題を理論的・実証的に分析して、現実の社会を変える発見を数多く行ってきた。例えば、最初期の研究成果である人種差別問題に関しては、人種差別が差別される人のみならず差別する側にも不利益となることを証明して、人種差別解消に向かう世論形成の強い理論的背景となった。人口問題に関する発見と対策は、少子化に悩む北欧諸国に取り入れられて、大きな実績を生んでおり、今後の日本にとっても貴重な示唆を含んでいる。

ベッカー教授は規制や犯罪と刑罰の関係等を分析し、より望ましい法体系の在り方を探る「法と経済学」という新分野を開拓者した第一人者でもある。さらに、家族が一つの行動単位として互いに協力しあって生活する理由を明らかにする理論を確立し、結婚、離婚、虐待、差別、信仰、等々の日常の家族生活や社会現象が合理的な選択の結果行われているという驚異的な発見を行い、経済問題のみならず広範な社会政策をも含む領域で、多くの新政策の基礎を提供した。

ベッカー教授は大学での卓越した研究教育者という面だけではなく、広範な社会問題に強い関心を持ち、経済学の観点から冷静に分析し、驚異的な洞察を導いてきたのみならず、長年にわたるBusiness Week 誌の非常に評価の高いコラムニストでもあり、この面からも米国の世論形成や社会政策立案にも大きな影響力を及ぼしている。最近では、Website (<http://www.becker-posner-blog.com>) における社会の多様な問題に対する発言が、世界中の識者から大きな注目を集めている。

これらの業績に対して、1992年のノーベル経済学賞を始めとする多数の受賞歴がある。シカゴ大学は、ノーベル賞受賞者数が2004年までに78人という1組織としては世界最高数を誇る大学であり、経済学だけでも5人の現職教授を含む23人の受賞者を抱えている。

中でも、ベッカー教授はシカゴ大学の最高の地位である University Professor であり、シカゴ大学の中でも 3 人しか受賞していないシカゴ大学 Phoenix 賞の受賞者でもある。また、米国大統領から、社会科学分野としては異例の The National Medal of Science を受賞しており、全米経済学会会長経験者でもある。